

福岡大学病院

FUKUOKA UNIVERSITY HOSPITAL

あたたかい医療



KINOSHITA

福岡大学病院の基本理念

あたたかい医療

社会のニーズに応える患者中心の医療の提供

高度先進医療の指導的病院

地域に開かれた中核的医療センター

社会に必要とされる優れた医療人の育成

健康のための情報発信基地

福岡大学病院綱領

1. 患者の権利と尊厳を尊重し、高い倫理観、使命感を備え
優しい心を持った医療人による誠実で責任ある医療を提供します。
2. 高度先進医療を提供する大学病院として最新の医療技術を導入し、
個々の患者に応じた最善の医療を提供します。
3. 全人的医療を目指して全職種が協働し、
患者を中心とした満足度の高い診療に取り組みます。
4. 地域住民との絆、地域医療機関との連携を大切にし、
医療・健康に関する情報の発信を通して医療水準の向上に努めます。
5. 臨床研究・高度技術の開発など、大学病院として先端的研究に取り組み、
世界の医療や医学の発展に貢献する人材の育成を図ります。

病院長あいさつ

福岡大学 総病院長／福岡大学病院 病院長

岩崎 昭憲



初めに

福岡大学病院長に就任し1年以上が経過しました。この間、皆様に質の高い安全な医療を提供するために、職員とともに取り組んでまいりました。医療を取り巻く環境も日々変化するなか、できる限り迅速に対応する必要があります。そのため福岡大学病院は、同じ大学法人の福岡大学筑紫病院、福岡大学西新病院と連携を行いながら先導的な役割を果たしております。3病院のより一層の取り組みが重要であり連携を促進するため「総病院長」制度が新たに始動し、2021年4月1日より就任いたしました。これまで以上に積極的な取り組みを行いたいと思います。

診療について

世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルス感染症で、本邦でも社会生活や医療現場に重大な影響を及ぼしています。本来の医療提供が困難になるほどコロナウイルス患者の対応に追われた1年でもありました。他施設では受け入れ困難な重症患者の専用病棟を開設し、福岡大学病院の機能を十分発揮させ地域医療に貢献してきました。いずれ様々な取り組みにより日常生活に戻る日も必ず訪れることと思います。それまで、特定機能病院での治療を待たれる患者さんへの診療が、少しでも遅滞しないよう本来の責務を果たしていきます。私たちは、新型コロナウイルスから多くの経験をし、そして学びました。組織の在り方、感染症に対する意識改革、診療連携の強化、機器の整備など数え切れません。今秋から着工する新本館には、幸いにもこれらの知見を反映させることができました。多くの時間を費やし、全ての部門からの意見を設計に取り込みました。新本館は、地上12階で屋上にはヘリポートを備え、感染対策も充実しています。今後も別の形式のパンデミックが起これと予測され、有事への日頃の取り組みが重要と考えます。2023年末には、患者さんや職員にも機能的で「あたたかい医療」を提供できる新病院が竣工いたします。

人口動態はこれからの医療に大きな課題を投げかけています。ご存じのように少子高齢化により国内では既に多くの地域で外来医療の需要ピークを迎えていますが、福岡市は人口増加が続き2045年に需要ピークを向かえる極めて稀な地域です。福岡市の医療圏は、福岡市近郊を含めると約200万人ですので、しばらく現在の体制維持が必要になります。しかし疾患構造の変化や2024年に向けた医師の働き方改革などの課題を克服しながら、

地域医療の中核的機関として高度医療を安全に提供する使命があります。多様化する医療を遂行するために、各種の専門職の分担と統合によるチーム医療の推進が必須です。

まず組織の更なる活性化や再編を進め、23診療科と15診療部、18診療支援部門を中心に機能的な診療を展開しています。これからも、がん、脳卒中、心筋梗塞や心疾患、精神疾患、災害、周産期、救急などの5疾病5事業の更なる強化を行い、また移植医療やロボットを駆使した最新医療の実績を伸ばしたいと考えています。そのためには可能な限り施設・設備充実をはかるとともに、病院組織改変や地域医療との連携で厳しい医療環境に対応したいと考えています。その一環として、2021年1月より、がん診療の一層の強化を図るため診療支援部門にある「腫瘍センター」を「福岡大学がんセンター」に名称変更しました。より精密で低侵襲治療を受けていただけるよう新たに「最先端ロボット手術センター」を新設し既に多くの治療が行われています。また「臓器移植医療センター」を診療部群に配置することで、福岡大学病院の役割を明確にしました。東洋医学診療部は、総合診療部と一体化した診療で効率化しました。大型医療機器もさらに充実させています。念願であったハイブリッド手術室を完成させ低侵襲血管治療を可能にしました。また最新放射線医療の機器導入も行い、がんの高精度治療を低侵襲で提供しています。

教育・研究的使命

教育病院として、優れた医療人を育成する使命があります。卒前、卒後の一貫した教育の中心的役割を果たす必要があります。すべての職員に対して生涯学習を支援することも大切だと考えます。また魅力的な職場環境づくりにも力を注ぎます。

難治性疾患の原因解明や新しい診断・治療方法の開発、科学性、有効性について検証する研究的役割も担っていますので、医学部との緊密な連携が欠かせないと考えます。また臨床研究支援センターの役割もますます重要になっていますので、その活動支援にも力を注がねばなりません。

福岡大学病院は、地域医療の中核として社会に貢献し半世紀近くが経過し、皆様とも強い連携を構築してまいりました。今後も質の高い医療を提供すべく努めてまいります。

ご理解、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

外来



患者さんひとりひとりを大切に
「あたたかい医療」を提供してまいります。

診療受付時間

	平 日
初診	8時30分～12時00分
再診	8時30分～15時00分

休診日：土曜日・日曜日・祝日・振替休日
8月15日・12月29日～1月3日

PICKUP

案内・受診相談

新館1階初再診受付横に、案内・受診相談窓口を設けています。

「診察を受けたいけど、何科にかかったらいいかわからない」という時、看護師を中心に受診科の相談に応じえています。また、院内の施設や場所の説明など何でもお気軽にご相談ください。

専門的知識・技術を有する看護師が、患者さん、ご家族へケアや相談などに対する看護師主体の相談窓口を開設しています。(物忘れ相談、こどもとご家族の相談など)



診療科・センター 一覧

- がんセンター(腫瘍・血液・感染症内科)
- 内分泌・糖尿病センター(内分泌・糖尿病内科)
- ハートセンター(循環器内科、心臓血管外科)
- 消化器センター(消化器内科、消化器外科)
- 腎・泌尿器・膠原病センター
(腎臓・膠原病内科、腎泌尿器外科)
- 呼吸器センター
(呼吸器内科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科)
- 脳神経センター(脳神経内科)
- 精神神経科
- 小児医療センター(小児科、小児外科)
- 運動器・脊椎・脊髄センター(整形外科)
- 皮膚科・形成外科・美容医療センター
(形成外科・美容外科、皮膚科・美容皮膚科)
- 脳卒中・脳脊髄腫瘍センター(脳神経外科)
- 女性診療センター
(産婦人科、呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、形成外科)
- アイセンター(眼科)
- もの忘れ外来専門センター(脳神経内科、精神神経科)
- 耳鼻咽喉科
- 放射線科
- 麻酔科
- 歯科口腔外科
- リハビリテーション部
- 総合診療部
- 予防・抗加齢・再生医療センター
- 心臓リハビリテーションセンター
(循環器内科、心臓血管外科)
- 摂食嚥下センター(歯科口腔外科、耳鼻咽喉科)
- 最先端口ボット手術センター
(呼吸器・乳腺内分泌・小児外科、呼吸器外科、消化器外科、腎泌尿器外科、産婦人科)
- 炎症性腸疾患先進医療センター(消化器内科)

病棟



患者さん中心の医療が提供できる
安心・安全な療養環境づくりを目指します。

病室

当院は、救命救急センターを含む21の入院病棟を有しており、病状や治療に合わせ、専門性の高い医療が提供できる療養環境を整えています。患者さんにとっては病棟・病床が生活の場となりますので、早期回復に向け患者さん個々に応じた療養生活を病棟看護職員が支えます。また、特別療養環境室(有料個室)として、病室の広さや備品により、各種病室が選択できますので、医師・看護師にご相談ください。

[一般室]



[個室]



PICKUP

てぶらで入院セット 有料

入院の際、身の回りのものをまとめて提供する「てぶらで入院セット(有料)」をご用意しています。衣類や消耗品の準備、タオルの洗濯等が不要になりますので是非ご利用ください。

- | | |
|---------------|------------|
| ・病衣 | ・ストロー |
| ・バスタオル | ・ストローコップ |
| ・フェイスタオル | ・歯磨きセット |
| ・お食事セット | ・ボックスティッシュ |
| (箸・スプーン・フォーク) | ・イヤホン など |

PICKUP

糸島あじわいメニュー

福岡西部に位置し、美しい海と山に囲まれて自然豊かで食材が豊富な糸島。新鮮な野菜や大豆製品、黒毛和牛、玄海ポークなどの糸島産の食材を中心に使用し、有田焼の器に盛り付けた食事を提供しています。クオリティーの高い食材を使った地産地消の病院食です。入院生活を少しでも快適に過ごしていただけたらと思います。

※入院時食事療養費
以外に1日800円
(税別)の自己負担
が必要です。



1 救急医療

24時間365日私たちは、救急患者さんの治療に全力を尽くします。



「一次救急」は

入院する必要のない軽症の急病患者、

「二次救急」は

入院や手術を必要とする患者、

「三次救急」は

生命に危険が及ぶような

緊急性の高い重症患者に対応するものです。

当院では、二次救急を救急外来(ER)が、
三次救急を救命救急センターが担っています。

PICKUP

NEW!

2020年7月から
ECMOセンターを
開設しました。

当院では2020年7月に救命救急センターに併設した“ECMOセンター”を立ち上げました。ECMO治療は新型コロナウイルス肺炎などが重症化し、人工呼吸器だけでは管理できない重篤な呼吸不全に対しておこなう呼吸管理の“最後の砦”です。ECMOセンターのスタッフは海外研修などでこれまでに蓄積してきた知識と経験を活かし、積極的に地域の重症呼吸不全患者を受け入れています。2021年6月にはECMO専用のドクターカー(ECMO Car)を導入し、県内はもとより隣接県の重症患者も当院まで安全に搬送出来るようになり、より多くの重症呼吸不全患者の救命を目指していきます。

PICKUP

救命救急センター

当院の救命救急センターは、人口250万人を抱える福岡都市圏のうち、福岡市南西部と糸島市を中心に、「三次救急」医療を担っています。病床数は34床を有し、年間約1,000名の最重症患者を受け入れており、救急医療の最後の砦として頑張っています。2020年7月には重症呼吸不全患者の治療に特化した「ECMOセンター」を併設し、福岡県内の新型コロナによる重症呼吸不全患者を積極的に受け入れ治療しています。1人でも多くの助かる命を助けるため、スタッフ一丸となって最高水準の医療の提供を目指しています。



PICKUP

救急外来(ER)

救急外来(ER)は、「二次救急」の患者さん受け入れのため2014年4月に正式に設立されました。現在、総合診療部を中心として、循環器内科、消化器外科など多くの診療科がERを支えています。



PICKUP

災害医療(DMAT)

Disaster Medical Assistance Team

DMATとは大規模震災や多数傷病者が発生した事故などの際に、直ちに現場へ駆けつけ、救急医療を行う“災害派遣医療チーム”です。DMATは災害医療の専門的訓練を受けた医師、看護師、業務調整員で構成された、言わば災害医療のスペシャリストです。当院のDMATは東日本大震災をはじめ、2016年4月の熊本地震、九州北部豪雨(2017年7月)、令和2年7月豪雨(人吉)(2020年7月)に出動し医療活動等を行いました。



PICKUP

ドクターカー

消防本部からの要請で、医師や看護師などの救急スタッフが病院から救急現場に向かうための緊急車両(ドクターカー)をFMRC(通称:エフマーク)と呼びます。車内には薬剤や緊急処置のための機材を搭載しており、傷病者に接触した直後から救急処置を開始することができます。重症な患者にできる限り早く治療を開始することで救命率の向上や後遺症の軽減を目指します。当院では病院で患者を待つのではなく、医師が直接救急現場へ出動する『攻めの救急医療』を実践します。



2 地域医療連携センター

患者さんがより適切な医療を受けられる体制を整備することを第一に、地域やその他の医療機関との医療連携の円滑化を目指します。



PICKUP

入退院支援センター

入院予定の患者さん、ご家族が、入院後の治療過程や生活をイメージでき、安心して入院生活が送れるように、入院前から多職種で支援を行います。看護師は入院生活の説明や気がかりへの助言、薬剤師が服薬状況、管理栄養士が栄養状態の指導等を行います。退院後の療養についても入院前から退院支援部門や地域医療関係者との連携を行います。

当院は、高度で専門的な医療を担う特定機能病院として、他の医療機関からご紹介いただいた患者さんを中心に診療を行っています。

地域の「かかりつけ医」と連携を取り、患者さんの症状に応じた適切な医療を提供いたします。

● 症状が安定すると、他の病院・医院をご紹介します

症状が安定した患者さんやお薬のみで通院されている患者さんについては、「かかりつけ医」またはお近くの医療機関へ転院し、治療を継続していただくことになっています。病院の機能分担に、ご理解とご協力をお願いいたします。

PICKUP

外来事前診療予約

当院の1日平均外来患者数は、1,200名を超えます。また、外来担当医、特に専門医による診療は毎日ではありません。予約なしでご来院いただくと、診療までに長い時間お待ちいただいたり、担当医が不在の場合は、患者さんのご希望に添えず受診できない場合があります。

当院での受診をご希望の場合は、【かかりつけ医】等にご相談いただき、医療機関から事前に診療のご予約をしていただくことをお勧めしています。



PICKUP

入退院支援

患者さんが外来診療から入院、そして退院または転院されるまでの流れがスムーズになるよう、入退院支援を行う看護師・ソーシャルワーカーを配置し、各外来および病棟スタッフが協働して患者さんをサポートします。

また、当院を退院・転院される患者さんが、地域の医療施設や自宅等で安心して暮らしていけるよう、専門的立場からサポートいたします。

PICKUP

医療相談窓口

病気や怪我に伴って生じる療養面や社会生活面の問題や不安に対して、ソーシャルワーカーが専門的な視点からご相談に応じたり、問題解決できるよう一緒に考えサポートいたします。

患者さんご本人はもとより、ご家族からのご相談もお受けいたしますので、悩みや不安があればご相談ください。

PICKUP

治療と仕事の両立支援 相談窓口

病気を抱えた患者さんが適切な治療を受けながら働き続けることをサポートする相談窓口です。

ソーシャルワーカーや看護師が、治療と就労生活の両立が実現できるように共に考えます。

また、月に1回、福岡産業保健総合支援センターから派遣された、両立支援促進員(社会保険労務士など)による出張相談窓口も設けています。



PICKUP

「かかりつけ医」紹介コーナー

当院では、「普段の通院治療、当院での治療後の経過確認、急な身体の変調時の初期治療に対応していただける地域の【かかりつけ医】」をご紹介します。

地域で開業されているクリニックのリーフレットを作成し、新館1階の【紹介コーナー】に設置しています。【かかりつけ医】をお探しの方はご利用ください。

PICKUP

医療セミナー 対象者:医療関係者

- 福岡大学病院メディカルセミナー
- 糸島医師会・福大病院 地域連携学術講演会

医療連携の取り組みの一つとして、各診療科の特色や教育・研究活動の紹介を通じて、地域の医療関係者との協力関係の充実を図っていくことを目的に医療セミナーを開催しています。



3 がんセンター



福岡大学病院は、がん診療連携拠点病院として専門的ながん医療を提供するとともに、地域の医療機関と連携して患者さんの治療や生活のサポートを包括的・継続的に行っています。がんセンターは診療科や職種の枠を超えて構成され、福岡大学病院でがん治療を円滑かつ効率的に行うことを目的に活動しています。

PICKUP

外来化学療法センター

抗がん薬に加えて、がん細胞がもつ特徴を選択的に攻撃する分子標的薬、自分の免疫力でがんを攻撃する免疫チェックポイント阻害薬など新規の治療薬が開発され、がんに対する薬物療法は進歩しています。治療には必ず副作用がありますが、いつ頃どのような副作用が起こるかを予測して予防もしくは早期発見・早期治療に努めることで、安全に有効な治療を実施できるよう専門の医師、看護師、薬剤師が協力して治療に臨んでいます。



PICKUP

緩和ケア



緩和ケアとは、病気のどの時期からでも認められる身体やこころの苦痛を和らげ、患者さんやご家族にとって可能な限り良好な生活の質を実現させるための医療です。症状緩和チームには複数の専門家(医師・看護師・薬剤師など)が集まり、主治医と一緒に患者さんが少しでもご自身らしく生きるためのお手伝いをしています。

PICKUP

放射線治療

外照射機器はリニアック2台、内照射機器はコバルト照射装置を備えています。外照射は通常放射線治療から強度変調放射線治療、定位放射線治療を実施し、内照射は主に婦人科がんに伴用しています。年間治療総患者数は約500例です。2021年1月に強度変調回転放射線治療(VMAT)が可能な新治療機器(ハルシオン)を導入。治療時間の短縮が可能で、より高品質な治療を提供できるようになりました。セカンドオピニオン目的の放射線治療相談外来を併設し粒子線治療等の適応についても相談を受けています。



操作室



治療室

PICKUP

がん相談・支援

がん患者さんやご家族の気がかりを少しでも解決できるよう、がん専門相談員がご相談をお受けしています。相談内容は、「告知や副作用」「副作用と普段の生活との両立や工夫」「退院後の療養場所」など多岐に渡りますが、診断前でも、治療が始まってからでも時期を問わず、対応しています。当院にかかりつけでない患者さんや一般の方への対応も行っています。



がん地域医療支援

がん地域連携バスとは…

- CT、MRI等の検査
- 定期診断
- 副作用出現時の対応
- 原疾患増悪時の対応

患者さん

わたしのカルテの共有

- 毎月の診察
- 血液検査
- 腫瘍マーカーチェック
- 処方

福岡大学病院

- 診断・手術
- 地域医療連携バスの説明・同意
- かかりつけ医へ逆紹介

かかりつけ医・連携病院

紹介

逆紹介

異なる発見
拠点病院へ紹介

院内がん登録

The diagram illustrates the data flow for the Fukuoka University Hospital's cancer registration system. It shows how data from different sources is integrated into a national cancer database and then into a prefectural database for death information.

- Left Side (Data Sources):**
 - 福岡県 (Fukuoka Prefecture):** Represented by a white box with a blue border. It contains the text: "医療機関から得た情報を整理し、国の全国がん登録データベースに登録する。" (Organizing information obtained from medical institutions and registering it in the national cancer registration database).
 - 市町村 (City/Town/Village):** Represented by a solid blue box.
 - 院内がん登録 (In-hospital cancer registration):** Represented by an orange arrow pointing from the bottom left towards the right.
- Right Side (Data Processing and Storage):**
 - 国 (National):** Represented by a white box with a blue border, containing the text: "(国立がん研究センター) 全国がん登録データベース" (National Cancer Research Center National Cancer Registration Database).
 - 都道府県 (Prefecture):** Represented by a white box with a blue border, containing the text: "都道府県から提供された情報と、市町村から提供された死亡情報を突き合わせ照合を行う。全都道府県のデータが国で一元管理される。" (Cross-checking information provided by the prefecture and death information provided by the city/town/village to perform verification. Data from all prefectures is managed centrally at the national level).
 - 死亡情報 (Death Information):** Represented by a white box with a blue border, containing the text: "死亡情報" (Death Information).
- Data Flow (Arrows):**
 - A blue arrow labeled "全国がん登録" (National Cancer Registration) points from the Fukuoka Prefecture box to the National box.
 - A blue arrow labeled "死亡情報提供" (Death Information Provision) points from the City/Town/Village box to the Prefecture box.
 - An orange arrow labeled "院内がん登録" (In-hospital cancer registration) points from the bottom left towards the Prefecture box.
 - A blue arrow points from the National box to the Prefecture box.
 - A blue arrow points from the Prefecture box to the Death Information box.

がんリハビリテーション

がんゲノム

キヤンサーボード運営部門

患者さんの情報

- ・ 年齢
- ・ 仕事
- ・ 家族背景
- ・ 社会背景
- ・ 心理的背景
- ・ 希望する事項
- ・ 希望しない事項



患者さんの病状や状態

- ・ 病理診断
- ・ 画像診断
- ・ 血液検査
- ・ 症状
- ・ 身体活動レベル
- ・ 認知機能レベル

がん手術支援部門

カンサーボード
(多職種による定期カンファレンス)

対症となる症例：診断が困難、治療方針が難しい、合併症が多い、治療による副作用、社会的問題が生じている等

治療方針

- 手術
- 放射線治療
- 抗がん剤治療
- 分子標的薬
- 免疫チェックポイント阻害薬
- がんゲノム医療
- 副作用コントロール
- 緩和ケア等
- 生活支援
- 服薬指導
- 栄養指導
- リハビリ指導
- 心理的サポート

主診医
外科系医師
放射線科医
化学療法専門医
内科系医師
ゲノム医療担当医
緩和ケア医
歯科医師
看護師
薬剤師
栄養士
理学療法士
精神科医
ソーシャルワーカー

適切ながん診療の提供

4 最新医療機器

最新型のロボット支援システム「ダビンチXi」などの最新医療機器を備えています。



PICKUP

NEW!

ハイブリッド手術室

昨年11月にハイブリッド手術室を開室し、血管撮影装置「Discovery IGS730」を導入しました。国内でも数少ない最新の自走式透視装置です。

ハイブリッド手術室とは、手術台と血管X線撮影装置を組み合わせた手術室のことで、外科手術による治療とカテーテルによる低侵襲な血管内治療を、手術室と同等の空気清浄度を保ちながら同一の室内で行うことが可能となります。これにより、手術時間の短縮や出血量の減少、さらには造影剤量や被ばく線量の低減など、患者さんの負担軽減につながります。

現在このハイブリッド手術室で、Transcatheter Aortic Valve Replacement (TAVR) の開始に向けて、循環器内科医、心臓血管外科医、麻酔科医、そして放射線技師、臨床工学技士、看護師など多職種で「ハートチーム」を構成しdry-runを行っています。このハイブリッド手術室によって、TAVRだけではなく様々な先端医療の提供が可能となります。

PICKUP

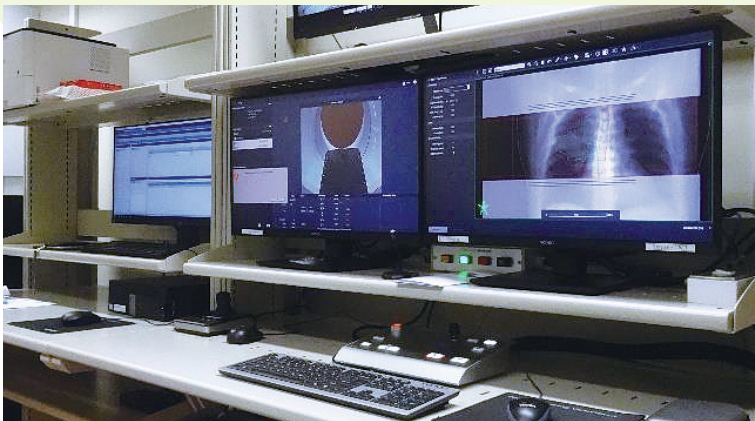
NEW!

高精度放射線治療装置 Halcyon(ハルシオン)

2020年12月、バリアン社の最新放射線治療装置 Halcyon(ハルシオン)が導入されました。この装置は、2019年3月に日本で第1号機が導入されて以来、国内で7機目となり、IMRT(強度変調放射線治療)に特化した高精度放射線治療装置です。IMRTでは、腫瘍の形に合わせて放射線を集中し、周囲の正常組織への照射線量を低減することが可能です。この装置は、治療計画から照射までが効率的にシステム化されており、これまでIMRTの対象とならなかった腫瘍に対しても適用していく予定です。また、IGRT(画像誘導放射線治療)を行うことにより再現性の高い正確な放射線治療が提供でき、高速なガントリ回転により治療時間を大幅に短縮可能です。外観はスマートなデザインで圧迫感が少なく、100cmの広い開口径ガントリや静かな動作音で患者様のストレスを軽減できます。この最新放射線治療装置の導入により、今まで以上に安全で安心できる高品質な放射線治療を提供してまいります。



Varian社製リニアック装置「Halcyon」



放射線治療操作室

PICKUP

da Vinci Xi: ダビンチ Xi

かの有名な芸術家の名を冠したダビンチ Xiは最新式の手術支援ロボット機器です。da Vinci Surgical System (Standard)が1999年に完成して以来、各国に広まったロボット支援機器。日本では2012年に前立腺がんに対する保険適応となったのをきっかけに多くの施設に導入されました。

ロボット手術はこれまで行われてきた腹腔鏡手術の低侵襲性(身体への負担が少ない)に加え、正確で微細な手術が可能となったことに大きな利点があります。福岡大学病院では2015年7月より第4世代となるダビンチ Xiを導入し、前立腺がんに対するロボット支援腹腔鏡下前立腺全摘除術を開始しました。2016年には、腎細胞がんに対する腎部分切除を導入し、さらに2020年には、腎盂尿管移行部通過障害に対する腎盂形成術を導入し、安全確実な手術を行っています。

世界的には婦人科疾患や消化器・呼吸器疾患に対する手術も多数施行されており、わが国においても2018年4月より保険適応となっています。



ダビンチ Xi



サージョンコンソール:
奥のモニターを見ながら、
術者は手術を行います。

患者さん側:
経験豊富な医師がダビンチ手術
をサポートしています。

5 周術期管理センター

安全で質の高い手術医療の提供を目指します

周術期とは、手術前から術中、術後を通しての期間を意味します。手術は体にメスをいれて治す医療ですので、傷の痛み、出血や感染など体にとっては日常で経験することのない侵襲となります。手術を含めた周術期を安全に進めるためには様々な準備が必要です。周術期管理センターでは、各科の外来で手術が決定した時点から、多くの専門職が関与して準備を進め、患者さんに安全で質の高い手術医療を提供することを目的とします。具体的には、麻酔科医、看護師、薬剤師などの専門職が連携して、術前評価や禁煙・服薬指導、医療安全教育などのオリエンテーションを行い、必要に応じて専門内科医や歯科医師とも連携をとりながら、身体的・精神的に安定した状態で手術を受けていただけるよう準備を進めていきます。こうした準備により、入院後の追加検査を減らし、手術をスムーズに行い、術後の合併症を予防して、入院期間の短縮と早期の社会復帰を支援していきます。

PICKUP

麻酔科医師

麻酔は、単に眠らせるだけでなく、麻酔薬によって特殊な状態を作り出し、手術中や手術後の痛みや出血、感染症から患者さんを守ります。しかし、麻酔そのものも体に大きな影響を及ぼします。このため、患者さんが手術および麻酔に耐えうる状況かどうかを、私たち麻酔科医が診察します。患者さんが麻酔の安全性、必要性、危険性などについてしっかりと理解した上で安心して手術、麻酔に臨んでいただけるように、麻酔の説明をします。



PICKUP

看護師

看護師は検査のスクリーニングだけでなく、入院に対する認識、日常生活・身体情報、家族の入院中のサポート状況を確認し、外来で得た情報を入院時に繋げるよう調整しています。手術室内や手術当日の状況についてビデオを見ていただき、安全に手術が行えるようオリエンテーションを行っています。麻酔科医の診察にも同席し、患者さんの意思決定支援など、安心して入院・手術が受けられるように入院前からサポートします。

PICKUP

歯科衛生士

周術期管理センターの特徴的な取り組みの一つに周術期口腔機能管理が挙げられます。歯科衛生士は、入院手術を予定された患者さんの口腔内観察を外来の段階で行い、口腔衛生状態や感染源となる歯周疾患の有無、全身麻酔時の保護が必要な動揺歯等のチェックを行います。チーム医療における連携業務を担っており、歯科疾患を早期に見つけ出し、麻酔科医に報告、口腔の問題解決のために歯科口腔外科受診に至る一連の流れを構築しています。

PICKUP

薬剤師

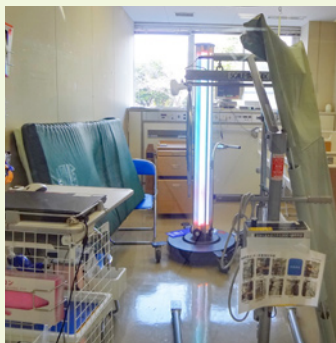
薬剤師の役割は、手術を受ける患者さんやご家族に対して服薬状況を聴取し、医師への情報提供を行うことです。薬によっては手術に影響を及ぼすものがあるため、医師は手術への影響を考慮して薬を「一時中止する」もしくは「継続する」かの判断を行います。また、健康食品等の摂取状況も確認し、安全に手術を受けることができる体制を構築しています。周術期管理センターを受診する際は、お薬手帳やお薬説明書の持参をお願いします。

PICKUP

歯科医師

歯科医師は手術日を含めた手術前後の口腔ケアを中心とした周術期口腔機能管理を行っています。全身麻酔の手術後には身体の抵抗力が落ち、肺炎や感染などの合併症が発症し易くなります。健康な状態でも口腔内にはたくさんの細菌が存在しています。抵抗力が落ちているときに口腔内の細菌が肺や血液の中に入ることによって合併症の危険性が高くなるため、術前から十分な口腔ケアを行いお口の中を整えておくことは大変重要です。

6 感染制御部



感染制御部は、医師、看護師、薬剤師、臨床検査技師の各専門職と事務職員で構成された組織横断的な部門です。院内外における感染症診療と感染対策の推進を図っています。

入院患者さんや来院される人、そして医療従事者をこのような感染から予防する基本は、「標準予防策(スタンダード・プリコーション)」です。感染制御部では、標準予防策の考え方に基づき、患者さんと医療従事者を感染から守るため、現場スタッフと共に徹底的な院内感染防止対策に努めております。

コロナ禍での医療現場では、感染対策上の様々な問題に直面しましたが、あらためて手指衛生や環境清掃など標準予防策の重要性を再認識することになりました。当院では、病院職員に手指衛生の教育を行い、実際に適切なタイミングで実施できているかのモニタリングや感染対策実施の定期的な評価を行っています。また、病院の清掃においては、清掃に携わる職員の教育とともに、定期的な清掃評価を行っています。また、2019年からは、紫外線照射機械(UVDIシステム)による殺菌消毒を積極的に実施し、安全で衛生的な環境を提供できるよう努めています。

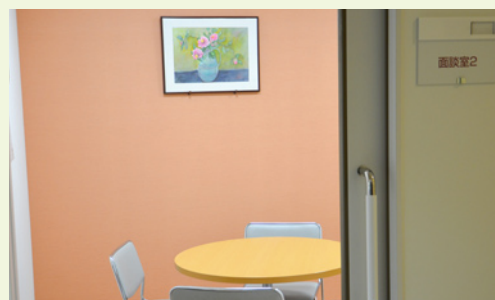


7 医療安全管理部

患者さんに安全で質の高い医療を提供できるよう、医療環境および医療システムの改善に向けて日々取り組んでいます。

特定機能病院でもある当院は、地域の先進的医療を担う病院として、より高度で良質な医療の提供を目指しています。しかし、医療の高度化・複雑化、患者さんの高齢化に伴い、医療の提供には様々なリスクが生じているのも事実です。

医療安全管理部は、少しでもこのリスクを軽減し、患者さんの安全を確保するために、日々医療環境の改善、職員教育に取り組んでいます。同時に、当院で提供する治療や看護ケアに対する患者さんの疑問にも耳を傾け、患者さんと情報共有を図りながら信頼関係に基づいた患者参画型の医療の提供を目指しています。



8 摂食嚥下^{えんげ}センター

食べて飲み込む機能の評価や維持、飲食物が気管に入ってしまうことによる肺炎や窒息の予防などに対してチーム医療を提供します。

超高齢化社会になり、入院患者さんが高齢化したこともあり、食べて飲み込む(摂食嚥下)障害に対する診療の重要性が増えています。摂食嚥下センターでは、医師、歯科医師、看護師、言語聴覚士、歯科衛生士、管理栄養士などの多職種で構成されるチームが、検査、治療、リハビリテーションにあたっています。入院患者さんの摂食嚥下障害に関する情報を集め、X線透視や内視鏡を用いた嚥下機能検査を行い、食事の形態や水分へのとろみの程度を適正に調整しています。また、必要に応じてリハビリテーション(嚥下訓練)を行い、転院や退院の際に提携先の病院やクリニック、施設に摂食嚥下に関する患者さんの情報を提供しています。さらに、摂食嚥下障害に携わる院内のスタッフを教育、養成する役割も担っています。



9 遺伝医療室

「遺伝」に関する疑問や悩みを解決していけるよう支援します。



近年、遺伝医学の進歩は目覚ましく、今まで原因不明とされてきた様々な疾患の原因遺伝子が同定され、遺伝子と疾患の関連も解明もすすみ、治療可能な遺伝性疾患も増えてきています。福岡大学病院遺伝医療室では、染色体疾患や遺伝性疾患に関する様々な疑問や不安をお持ちの方々に遺伝カウンセリングを行っています。例えば「家族の病気が自分や他の家族に遺伝しないか」、「自分の病気がこどもに伝わるかも知れない」、「こどもに先天性の異常が見つかったがどうしよう」、「遺伝子検査や染色体検査を勧められたけれど、どのように考えればいいのかわからない」等をお持ちの方々に、遺伝に関する医学的、心理的、家族的影響に対して正しい情報を分かりやすく提供し、ご本人やご家族に理解していただき、共に考え、より良い方向に向かえるようお手伝いしてまいります。遺伝カウンセリングの対象疾患は、染色体の変化に伴う疾患、神経変性疾患、小児領域の遺伝性疾患、遺伝性の内分泌・代謝疾患、遺伝性のがん、周産期疾患、NIPT: non-invasive prenatal testing(母体血を用いた非侵襲的出生前遺伝学的検査)、その他遺伝が関係する疾患です。福岡大学病院は日本人類遺伝学会の認定研修施設であり、遺伝学に精通した臨床遺伝専門医を中心に、各診療科の専門医とともに対応いたします。

10 リハビリテーション

運動器・脳血管・心大血管・内部障害の専門チームで
早期社会復帰をめざし総合的な医療を提供しています。

PICKUP

福岡・アジアロボティクスリサーチ& HAL® リハビリテーションセンター

当院はロボットスーツを用いて保険医療を行うことができる施設として、九州では一番最初に認可を受けました。また、保険適応外であっても自由診療で積極的に治療を行っています。「自分の脚で歩きたい」という願いを少しでも叶えられるよう患者さんをサポートしています。



PICKUP

HAL® (Hybrid Assistive Limb®)

ロボットスーツ HAL® (Hybrid Assistive Limb®) は人が「動きたい」と考えたとき、脳から神経を通して必要な信号をその動作に必要な筋肉へ送り出します。その信号を HAL® が読み取り、意図した動作に合わせたアシストを行います。当院では2011年9月に導入し、2019年9月まで下肢タイプ(両脚型・片脚型・膝単関節型)を431症例、上肢タイプ(肘単関節型)を185症例の脳卒中、脳腫瘍、脊椎脊髄疾患術後、全人工膝関節置換術後などの入院患者さん(13歳~95歳)に使用してきました。2016年10月より保険適応となった神経・筋難病の14症例の患者さんに実施して良い結果を得ています。



PICKUP

心臓リハビリテーションセンター

心筋梗塞や心不全、心臓手術後などの患者さんはまず心臓・動脈に負担がかからない範囲内でベッドより起き上がることからリハビリが始まります。基本動作能力や歩行能力を再獲得し、少しずつ活動範囲を拡げていきます。その後は有酸素運動を中心に、日常生活に適應できるよう体力の増進を図ります。外来では再発を予防し不安をできるだけ解消できるように医師・看護師・理学療法士・薬剤師・管理栄養士・健康運動指導士などの多職種チームで運動指導、栄養指導、薬剤指導など一人ひとりに合わせたプログラムを提供し、患者さんをサポートしています。



PICKUP

メディカルフィットネスセンター

福岡大学は医学部とスポーツ科学部を有する特色を生かし「メディカルフィットネスセンター」を設立し、多職種が協働で専門性の高い運動療法を皆様に提供できるように取り組んでいます。生活習慣病をはじめ、心臓疾患、糖尿病をお持ちの患者さんや、肥満、メタボリックシンドロームでお悩みの患者さんにぜひこの施設を有効に活用していただきたいと思います。

11 総合周産期母子医療センター

母体・胎児・新生児に対する高度な医療を提供し、
ハイリスクの母体と新生児を救います。



福岡県で初めて
総合周産期母子医療センター
として指定された施設です。

産科部門はMFICU(母体・胎児集中治療病床)6床、後方病床24床を有し、新生児部門ではNICU(新生児集中治療病床)15床、後方病床24床で運営され、最先端の医療機器を備え診療しています。

産科部門は、早産、妊娠高血圧症候群、妊娠糖尿病など母体疾患、多胎妊娠はもとより出生後外科的治療を要する胎児異常などの胎児疾患を中心に高度医療を推進し、安全・安心の診療を行っています。新生児部門では早産児の体外での発育管理・治療や新生児の内科的疾患を取り扱っています。また新生児外科疾患に対しては、小児外科、脳神経外科、眼科、腎泌尿器外科などの外科系各科と密接な連携を取りながら高度な医療に対応しています。



12 小児医療センター

最新の機器を備え、大学病院でなければできない
先進・高度医療を実践しています。

当センターは、
15歳未満の専用病床を63床もつ
小児医療を専門に行う施設です。

扱う疾患の中心は専門的治療が必要な白血病などの悪性腫瘍疾患、難治性のてんかん、先天性疾病などです。同様に小児の外科疾患も扱っています。一方で、福岡市の急患センターからの二次救急の受け入れなど、地域医療や救急医療にも注力しています。全国に先駆けて専任の保育士2名、チャイルドライフスペシャリスト1名がおり、小児看護専門看護師、臨床心理士3名等とともに、よりよいこどもの治療環境を目指しています。その一環が院内学級の「菜の花学級」で、長期入院の小学生と中学生が学んでいます。



13 医学教育

医のプロフェッショナルを目指します。



PICKUP

臨床研修医の教育

本院は地域の基幹病院であり、コモンディーズ(高頻度にみられる疾患)から珍しい疾患まで様々な症例を経験できます。患者さんのファースト・タッチは研修医が行い、上級医と共に診療にあたる「屋根瓦方式」を採っており、実践的なプライマリ・ケアの修得ができます。また、三次救急のほか二次救急として新たに「救急外来(ER)」を設置し対応しています。

多くの診療科、専門医を有し、関連する診療科がセンターを形成しており連携もスムーズで、症例を総合的に診療することができます。研修医は様々な選択肢から進路を考えることができます。

PICKUP

臨床研修プログラムの特色

本院の研修プログラムは、福岡大学病院と福岡大学筑紫病院を主体に、地域の研修協力病院と病院群を構成し、効率的な研修を目標にしています。

1年次に必修科目(内科、外科、麻酔科を含めた救急部門、精神科、小児科、産婦人科)をひと通り経験し、プライマリケアを修得した上で、研修医の経験症例や多様なニーズに応じて2年次は自由に研修科や研修期間を選択できるよう選択科目の期間を長く(36週間=9カ月)設けています。また、1年次では筑紫病院で研修できるコースも選択することができます。

このほか、小児科、産婦人科に特化した研修プログラムも設置しています。



クリニカルクラークシップ

医学部・薬学部の学生には、診療参加型実習(クリニカルクラークシップ)、つまり、医学部・薬学部と病院を一体化した連続性のある教育が求められています。一人での知識や勉強では得られない、サイエンスに支えられたアートの世界が医学教育には必要です。命の大切さを学ぶ精神を基軸に、医療安全・患者満足度の視点等、医学教育の改革は世界的潮流です。医療を志す学生が基本的臨床能力を習得するための必須プログラムです。



PICKUP

医学部医学科

スチューデント・ドクターの医学生が、患者さんの診療チームの一員として大学病院内で臨床実習を行っています。指導医のもとで患者さんの病歴聴取、身体診察、検査や治療・手術などを実際に経験し、患者さんから学ぶクリニカルクラークシップは医師になるための必須のプログラムです。

PICKUP

医学部看護学科

人間性、柔軟な思考力、科学する態度や協働・連携の能力を養います。社会奉仕・貢献の感覚を醸成させ、学際的能力、国際的視野を教育の方針・目的にしてきました。地域の医療機関での研修も自身の将来像に大きな影響を与えてくれます。



PICKUP

薬学部薬学科

人の健康や生命を尊重するという考えに基づき、誠意あふれる態度を習得することを目標として長期実務実習が行われています。当院における実習では、病院薬剤師の業務と責任を理解し、病院内でのチーム医療に参画できるように、薬剤部内業務、病棟薬剤業務の参加型実習を通して薬剤師業務に関する基本的知識、技能、態度を学びます。

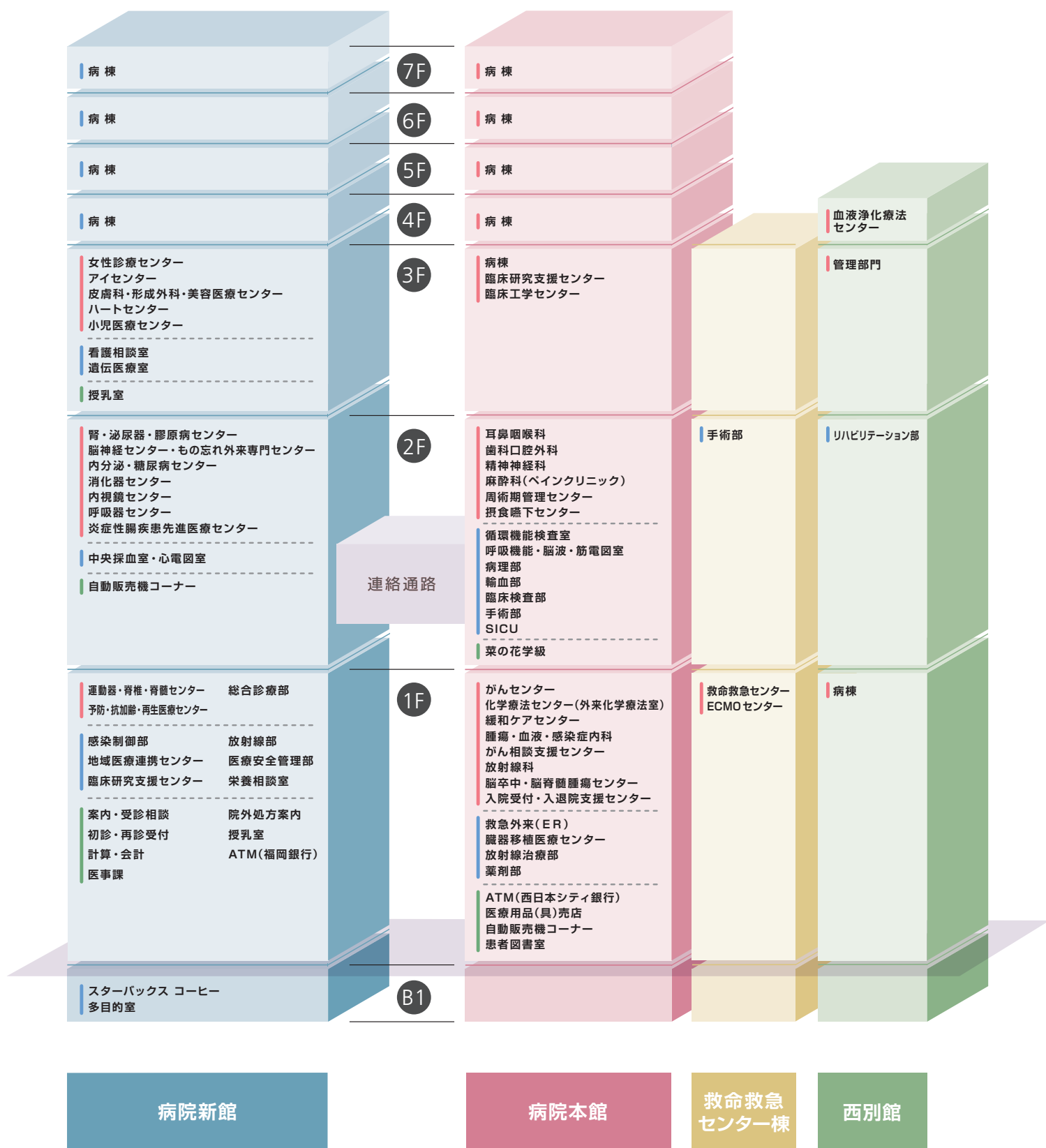


スチューデント・ドクター

臨床実習前医学系共用試験に合格した学生はスチューデント・ドクターの認定証付き名札を着用して、患者さんの診療に参加することが認められます。



フロア紹介



院内施設紹介

各番号はフロアマップ上の■と対応しています。詳しい場所はフロアマップをご覧ください。

銀行ATM

2



福岡銀行ATM

利用時間 平日・土曜・日曜・祝日
9時00分～20時00分
場所 新館1階

9



ゆうちょ銀行ATM

利用時間 平日 9時00分～17時00分
土曜 9時00分～12時30分
日曜・祝日 お取り扱いがありません
場所 旧バス停横

10



西日本シティ銀行ATM

利用時間 平日・土曜・日曜・祝日
9時00分～20時00分
場所 本館1階 休日・夜間入口横

飲食店・美容室

4



スターバックス コーヒー(喫茶)

営業時間 平日 7時30分～20時00分
土曜・日曜・祝日
10時00分～19時00分
場所 新館地下1階

6



クロスワン(レストラン)

営業時間 平日・土曜・日曜・祝日
7時00分～19時30分
場所 テナント棟2階

12



こもれび(美容室)

営業時間 月曜～金曜(祝日も営業)
9時00分～18時00分
場所 テナント棟1階

売店

1



アットホーム

クッキーやケーキの販売を行っています。
営業時間 平日 10時00分～14時00分
場所 新館1階

7



ローソン(売店)

営業時間 平日・土曜・日曜・祝日
7時00分～24時00分
場所 テナント棟1階

8



医療用品(具)売店

営業時間 平日 10時00分～16時40分
場所 本館1階

その他

3



福大メディカルホール

地下鉄七隈線福大前駅の真上にある、300席の講演会ホールで、講演会や研修会等を開催しています。
場所 新館1階横 (問い合わせ先:庶務課)

5



福大プラザ

各診療科や講演会の案内の他、福岡市城南区の「まちかど文化ひろば」として、一般の方の展示スペースとして開放しています。
場所 新館地下1階 (問い合わせ先:庶務課)

11



患者図書室

患者さんやご家族の方が利用できる図書室です。
利用時間 平日 8時30分～17時30分
場所 本館1階

フロアマップ 新館

新館 1F



案内・受診相談・文書窓口



初再診受付



再来受付機



計算



自動精算機



防災センター



バスナビジョン

新館 B1

- 男子トイレ
- 女子トイレ
- 多目的トイレ
- 授乳室
- エレベーター
- エスカレーター
- 公衆電話
- アットステーション (インターネット用PC(有料))
- テレビカード精算機
- 地下鉄

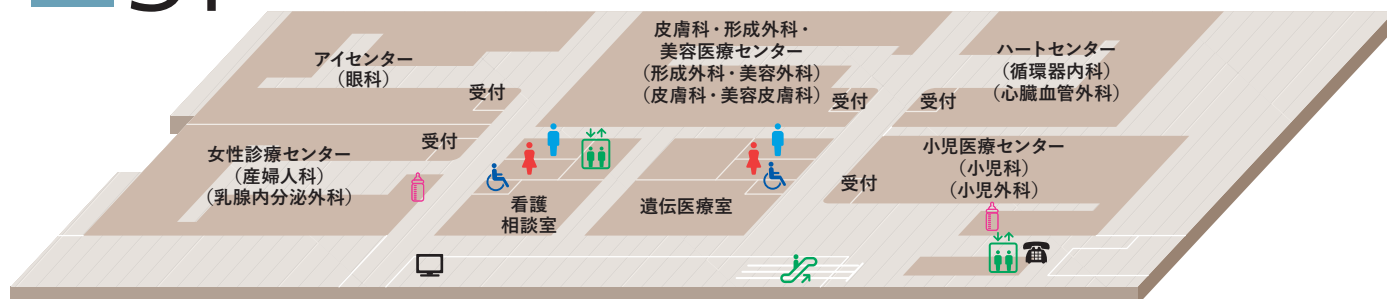


メディカル
フィットネスセンター

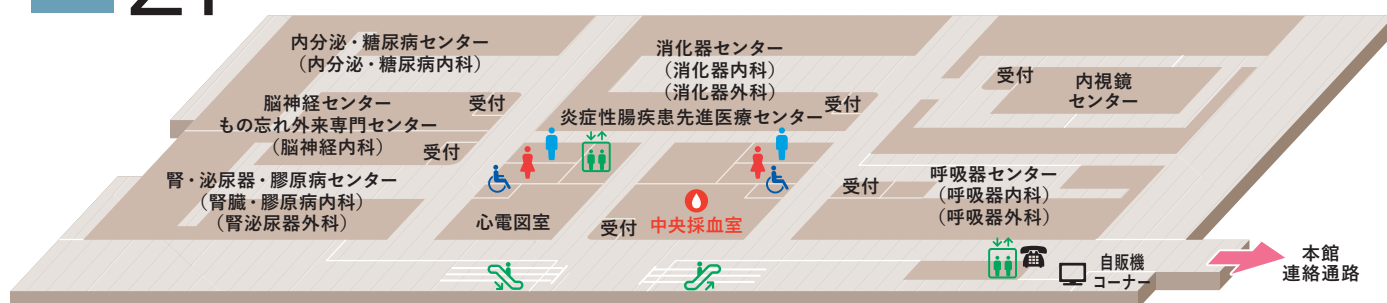


スターバックス コーヒー

新館 3F



新館 2F



心電図室



中央採血室

フロアマップ 本館

本館 2F

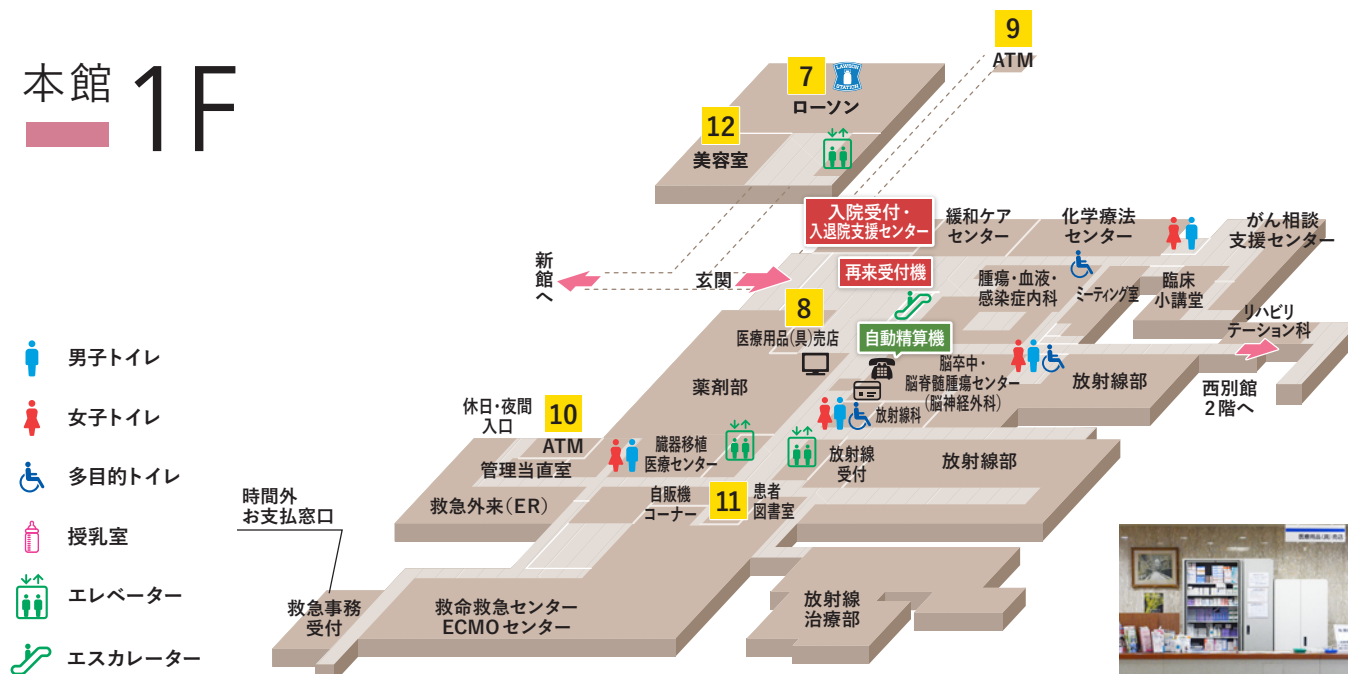


循環機能検査室(心電図・心エコー)



呼吸機能・脳波・筋電図室

本館 1F



医療用品(具)売店



放射線受付



自動精算機



救急事務受付

-  男子トイレ
-  女子トイレ
-  多目的トイレ
-  授乳室
-  エレベーター
-  エスカレーター
-  公衆電話
-  アットステーション
(インターネット)
-  テレビカード精算機
-  地下鉄

その他のさまざまな施設、多彩なイベントも 福岡大学病院の魅力です。

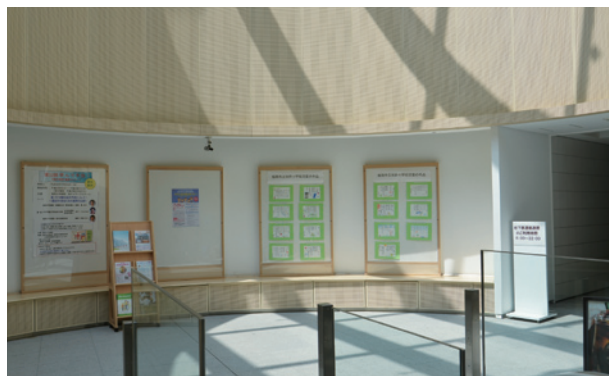
福大メディカルホール



地下鉄七隈線福大前駅の真上にある、300席の講演会ホールで、講演会や研修会等を開催しています。

i 問い合わせ先：庶務課

福大プラザ



各診療科や講演会の案内の他、福岡市城南区の「まちかど文化ひろば」として、一般の方の展示スペースとして開放しています。

i 問い合わせ先：庶務課

ホスピタルガーデン



新館南側から新館東側地階までをつなぐ広場です。散歩や休憩など様々な用途でご利用ください。

スターバックス コーヒー



— すべてのお客様の一日を幸せに —
高品質のアラビカ種コーヒー豆から抽出したエスプレッソがベースのバラエティ豊かなドリンクやベストリー、サンドイッチをお楽しみいただけます。

レストラン＆ベーカリーショップ (クロスワン)



店内焼き立てベーカリーと人気のパン屋さん「ブリオッシュ」の販売をしています。お食事ができるレストランも併設しておりますので是非ご利用ください。

ボランティア



院内には、黄色のエプロンを着用したボランティアが多数活動しています。

〔主な活動〕 院内の案内、入院患者さんを対象とした折り紙やバルーンアートの制作など。

病院概要

病院のあゆみ

昭和48年8月4日	福岡大学病院開設
昭和59年9月30日	西別館完成
昭和60年4月22日	南片江小学校「なのはな学級」開級
昭和62年4月1日	救急部開設
昭和63年3月29日	外国医師・歯科医師臨床修練指定病院承認
平成2年4月1日	新生児特定集中治療室(NICU)施設基準承認
平成4年6月1日	救命救急センター指定
平成4年11月1日	特定集中治療室管理(ICU)施設基準承認
平成6年2月1日	特定機能病院承認
平成6年4月1日	エイズ治療拠点病院指定
平成8年12月27日	災害拠点病院指定
平成10年4月1日	梅林中学校「菜の花学級」開級
平成10年12月1日	総合周産期母子医療センター指定
平成14年10月1日	外科系集中治療室設置
平成15年1月1日	院内全館禁煙実施
平成15年4月1日	医療安全管理部(医療相談窓口含む)を設置
	卒後臨床研修センター設置
	臨床工学センター設置
平成16年4月1日	地域医療連携室設置
	臨床研修病院(基幹型)指定
平成16年11月22日	(財)日本医療機能評価機構 病院機能評価認定
平成17年2月3日	福岡市営地下鉄七隈線開業
平成17年5月31日	肺移植実施施設認定
平成17年10月28日	新鮮臍島分離移植施設認定
平成19年1月1日	病院敷地内禁煙実施
平成19年4月1日	院内保育所開設
	腫瘍センター設置
平成19年7月2日	治験拠点病院指定
平成20年1月31日	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)指定
平成20年2月8日	地域がん診療連携拠点病院指定
平成21年8月5日	電子カルテシステム稼働
平成22年4月5日	メディカルクラーク導入
平成23年1月4日	福岡大学病院新館開院
平成23年3月12日	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(東日本大震災)
平成23年6月1日	テナント棟オープン
平成24年7月21日	福岡都市高速5号線(環状線)開通
平成25年4月1日	二次救急受入れ開始
	救急病院認定
平成26年6月27日	福岡市救急病院協会入会
平成26年7月1日	福岡市児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院指定
平成26年11月1日	福岡市認知症患者医療センター指定
平成28年4月15日	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(熊本地震)
平成28年4月24日	日本医師会災害派遣医療チーム(福岡県JMAT)派遣(熊本地震)
平成29年4月1日	地域医療連携センター業務専用車両運用開始
平成29年7月7日	朝倉豪雨災害被災地へ福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣
平成30年1月4日	ファーストメディカルレスポンスカー(FMRC)運用開始
平成30年1月29日	小児慢性特定疾病児童等レスパイト支援事業受託 (福岡県・福岡市・久留米市・北九州市)
平成30年4月1日	ななくまのもり保育園開園
	がんゲノム医療連携病院指定
平成30年6月1日	治療と仕事の両立支援相談窓口開設
平成30年7月13日	高齢運転者の交通事故抑止に向けて早良警察署と協力
平成31年3月4日	ふくおかDPAT派遣協定締結
令和2年7月5日	福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)派遣(令和2年7月豪雨)
令和2年10月14日	福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関指定

認定・指定施設

- 外国医師・歯科医師臨床修練指定病院
- 救命救急センター
- 特定機能病院
- エイズ治療拠点病院
- 災害拠点病院
- (公財)日本医療機能評価機構認定病院
- 脳死肺移植実施施設
- 福岡県災害派遣医療チーム(福岡県DMAT)
- 災害派遣精神医療チーム(ふくおかDPAT)
- 地域がん診療連携拠点病院
- 救急病院
- 総合周産期母子医療センター
- 臨床研修病院(基幹型)
- 福岡市児童虐待防止医療ネットワーク事業拠点病院
- 福岡市認知症患者医療センター
- がんゲノム医療連携病院
- 福岡県新型コロナウイルス感染症重点医療機関

組織図



概要

名称 福岡大学病院
所在地 福岡市城南区七隈七丁目45番1号
電話番号 092-801-1011 (代表)
FAX 092-862-8200 (代表)
ホームページ <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>
開設年月日 昭和48年8月4日

数字データ (令和2年4月1日現在)

● 病床数 915床 (一般855床、精神60床)
 ● 職員数 1,913人
 医師 …………… 484人 医療技術職員 …… 275人
 臨床研修医 …… 55人 事務職員 …… 106人
 看護職員 …… 908人 その他 …… 85人

	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度
外来患者数	371,135	371,469	377,466	370,917	365,401	359,898	349,399
入院患者数	304,271	295,003	285,895	253,909	274,319	270,794	266,923
平均在院日数※	14.1	14.3	13.8	12.5	12.8	11.9	12.1
手術件数	8,582	8,590	8,565	8,204	8,490	8,504	8,553

※精神神経科を除く一般病棟を対象として算出しています。

患者さんの権利と義務

医療は医療者と患者さんとの信頼関係で成り立っています。福岡大学病院では、信頼され安心して受診していただける病院を実現するため、患者さんの基本的な権利を明確にしてこれを職員一同が確認すると共に、患者さんにも義務を守っていただくことを要望いたします。

● 患者さんの権利

- 受療権** 患者さんには常に人間としての尊厳と、差別のない安全で最善の医療を受ける権利があります。
- 選択権** 患者さんには病院を自由に選択し、変更する権利があります。また、患者さんには、自己の費用負担の下にセカンドオピニオンを求める権利があります。
- 自己決定権** 患者さんは検査や治療について、その目的、もたらされる結果などについて十分説明を受け、納得の上で選択あるいは拒否する権利があります。
- 知る権利** 患者さんは自分自身に関する情報を開示され、自己の健康状態について十分な情報を得る権利があります。
- プライバシー保護権** 患者さんは医療上得られた個人情報やプライバシーが守られる権利があります。

● 患者さんの義務

- 情報提供義務** 患者さんは良質な医療の提供を受けるために、ご自分の健康に関する情報をできる限り正確に医師や看護師に提供してください。
- 状況確認義務** 患者さんは納得のいく医療の提供を受けるために、医療に関する説明を受け理解できない場合は理解できるまで質問して確認してください。
- 診療協力義務**
 - 全ての患者さんが適切な療養環境で治療に専念できるように、社会的ルールや病院の規則、職員の指示を守ってください。
 - 他の患者さんや職員に対する暴言・暴力等迷惑行為はお断りします。
 - 病院内では静粛にし、病院の設備・器物は大切に扱ってください。
 - 病院敷地内は禁煙・禁酒です。入院中の喫煙・飲酒は禁止します。
- 医療費支払い義務** 適切な医療を維持していただくために、医療費を遅滞なくお支払いいただくことが必要です。

● 義務に違反した場合

前掲の義務に違反する行為等があったときは診療を中止することがあります。
 また、暴言・暴力等の行為があったときは警察署に通報します。

患者の皆さんの個人情報について

当院では、取得した患者さんの貴重な個人情報を含む記録を医療機関としてだけでなく、教育研究機関として所定の目的に利用させていただきたく思いますので、患者さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

● 個人情報の利用目的

当院での利用

- ◎ 患者さんがお受けになる医療サービス
- ◎ 医療保険事務
- ◎ 患者さんに関係する管理運営業務 (入退院等の病棟管理、会計・経理、医療事故の報告、医療サービスの向上)
- ◎ 医療サービスや業務の維持・改善のための基礎資料
- ◎ 院内がん登録業務および全国がん登録業務(予後調査含)

当院および福岡大学での利用

- ◎ 医学系教育
 - ◎ 症例に基づく研究や研修
- この利用に当たりましては、可能な限り匿名化するよう努力します。

他の事業者等への情報提供

- ◎ 他の病院、診療所、助産所、薬局、訪問看護ステーション、介護サービス事業者等との医療サービス等に関する連携
- ◎ 他の医療機関等からの医療サービス等に関する照会への回答
- ◎ 患者さんの診療等にあたり外部の医師等の意見・助言を求める場合
- ◎ 検体検査業務の委託その他の業務委託
- ◎ 患者さんの家族への病状説明
- ◎ 医療保険事務(保険事務の委託、審査支払機関へのレセプトの提出)
- ◎ 審査支払機関または保険者からの照会への回答
- ◎ 関係法令等に基づく行政機関および司法機関等への提出等
- ◎ 関係法令等に基づいて事業者等からの委託を受けて健康診断を行った場合における、事業者等へのその結果通知
- ◎ 医師賠償責任保険等に係る医療に関する専門の団体、保険会社等への相談又は届出等
- ◎ 外部監査機関への情報提供
- ◎ 院内がん登録および全国がん登録(予後調査含)における国立がん研究センター等への情報提供

付記

- 臨床研究においては、患者さんの同意に基づき個人情報を適切に保護いたしております。
- 上記のうち、他の医療機関等への情報提供について同意しがたい事項がある場合には、その旨を担当窓口までお申し出ください。
- お申し出がないものについては、同意していただけたものとして取り扱わせていただきます。
- これらのお申し出は、後からいつでも撤回、変更等をすることができます。



● 外来駐車場

自家用車でご来院の際は、外来駐車場をご利用ください。ただし、入院のためご来院いただく際の駐車場利用はご遠慮いただいています。公共の交通機関をご利用くださいますようよろしくお願いします。

駐車場利用料金

駐車から最初の30分は無料、4時間まで200円、以降1時間が経過するごとに100円加算されます。

ただし、外来を受診された患者さんに限り、2時間まで100円、2～24時間まで200円となります。また、障害者手帳(身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者福祉手帳のみが対象)をご提示いただくと、外来受診患者に限り、駐車料金を免除いたします。いずれも割引処理は、新館1階防災センターにて①受付票または領収書、②駐車券、③障害者手帳(③はお持ちの方のみ)の2点もしくは3点をご提示いただくと割引処理を行います(※減免対象は当日分のみ)。



● 他医療機関への連絡バス

下記の医療機関との連絡便が運行されています。ご利用ください。

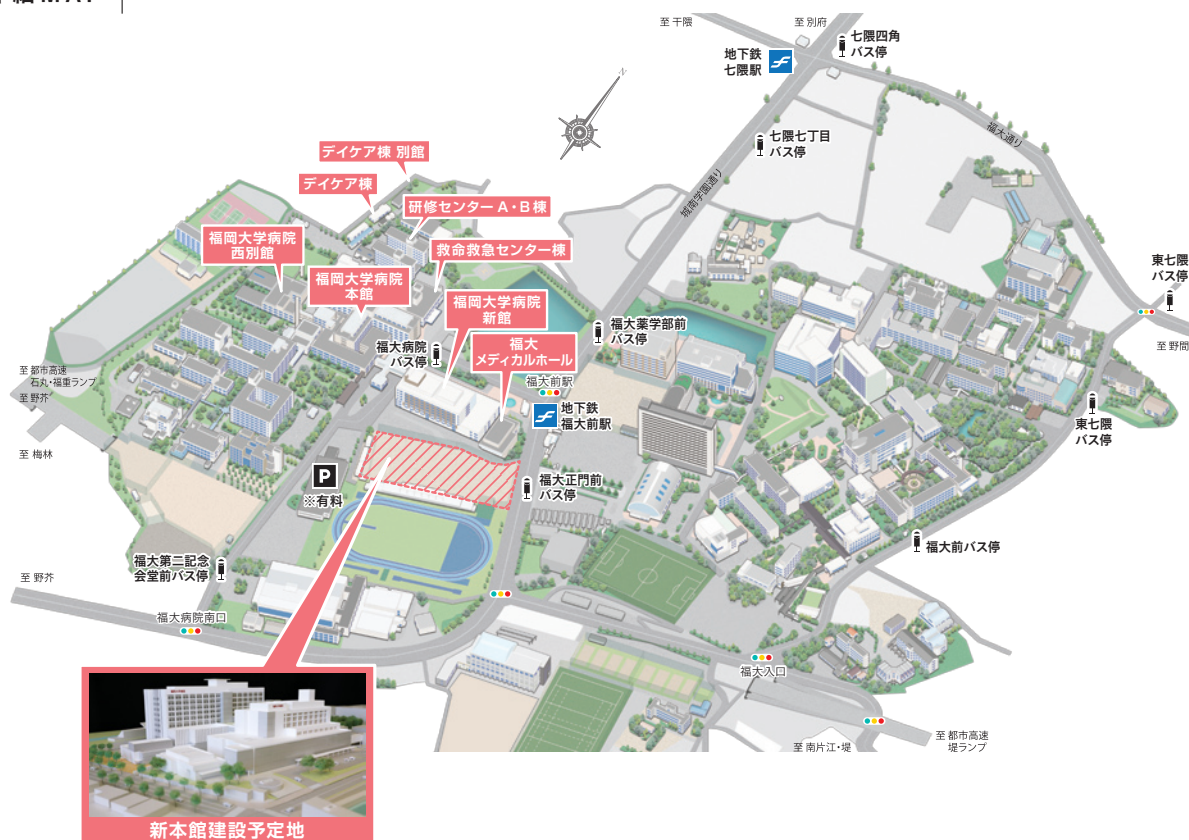
- 白十字病院
- 西福岡病院※
- 福岡リハビリテーション病院
- 夫婦石病院
- 福西会病院

※西福岡病院のみ本館玄関前には停車しません。新館玄関前からお乗りください。

広域MAP



詳細MAP



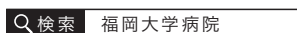
福岡大学病院

〒814-0180 福岡市城南区七隈七丁目 45 番 1 号

TEL: (092)801-1011(代)

発行：医療情報部

URL: <https://www.hop.fukuoka-u.ac.jp/>



福岡大学病院
公式チャンネル

